

令和3年度(2021年度)農林水産常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和3年(2021年)11月8日(月)
- 2 視察者 農林水産常任委員会(7名)
末松直洋(委員長)、楠本千秋(副委員長)、吉永和世、
澗上陽一、磯田 毅、山本伸裕、荒川智章

3 視察の概要

(1) 田んぼダム実証実験地(球磨郡湯前町)

熊本県では、流域治水プロジェクトの一環として、今年度から2年間、人吉・球磨地域7市町村の水田(296ha)で田んぼダム実証実験事業に取り組んでいる。

そのうち、湯前町では、専用のせき板を設置する通常の田んぼダムに加え、自動給排水栓を用いたスマート田んぼダムの実証実験にも取り組んでいる。

今回の視察では、湯前町の実証実験地を視察するとともに、地元の土地改良区や生産者らと意見交換を行った。

執行部から、実証実験の取組について説明があった後、課題や普及に向けた今後の対策等について報告がなされた。

意見交換会では、田んぼダムの取組面積の拡大を図るためには、排水柵や畦畔等の改修が必要という意見に加え、農家の管理に係る負担を減らすことや下流のためになるという機運醸成を図ることが必要であるなどの意見が地元説明会時に出されたとの説明があった。



(2) 大口西部地区水利施設等高度化事業地（宇城市）

宇城市大口西部地区は、平成 28 年度（2016 年度）に採択された水利施設等保全高度化事業（畑地帯担い手育成型）にて、区画整理工 A=14ha 及び農道整備工 L=1,537m を実施中である。

本地区の区画整理工では、高収益作物の導入に対応した省力化や高品質化等の営農改善を図るため、区画の整備に加え、排水対策として、農地への客土や暗渠排水、排水機場の新設により、水田を畑（樹園地）に転換することとしている。

今回の視察では、樹園地整備の取組について、本事業の実施状況を視察するとともに、受益者等から意見の聞き取りを行った。

執行部から事業の概要やスケジュールについて説明が行われた後、受益者等からは、ハウス整備に係る補助率アップや潮風害等から樹体を守るための防風ネットの設置について要望があり、また、耕作放棄地となっていた水田を高収益作物の作付けが可能な畑として整備している本地区を、全国のモデル地区となるよう後押ししてほしいという意見があった。



(3) 熊本県農業研究センター果樹研究所（宇城市）

農業研究センター果樹研究所は、昭和 7 年に熊本県農事試験場柑橘試験地として熊本市河内町に創設され、昭和 47 年に現在の宇城市松橋町に移転し、現在に至っている。

常緑果樹研究室、落葉果樹研究室、病虫化学研究室から構成され、果樹農家の所得向上のため、オリジナルカンキツ開発をはじめ、気候温暖化や消費者ニーズ、新たな病害虫等に対応した新技術の開発に取り組んでいる。

今回の視察では、カンキツの新品種育成や新技術開発の取組状況について説明を受け、その後、「プレミアムデコポン」の研究圃場の見学を行った。

果樹研究所からは、温暖化の影響や病害虫の発生が見られる中で、熊本県産カンキツのブランド力向上を図るために安定生産技術の開発を進めて

いること、また、市場ニーズの高い糖度14度のプレミアムデコポンの普及に向けた研究に取り組んでいることなどの説明があった。

